

大学の世界展開力強化事業(2021年度選定) 筑波大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度2021年度・(タイプB①))

地球規模課題解決に資する教育政策マネジメント専門人材育成プログラム

【交流推進事業の概要】

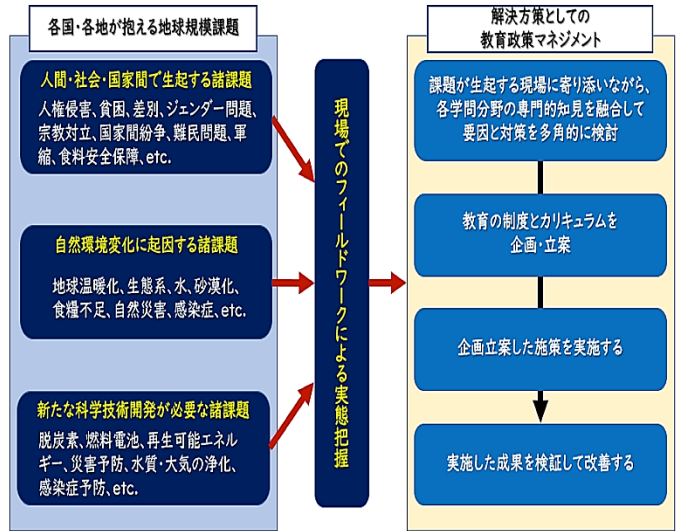
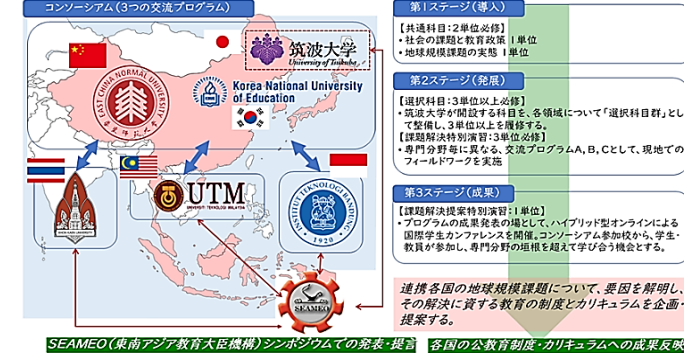
地球規模課題解決に資する教育政策マネジメント専門人材育成プログラム

【背景】グローバル化の急速な進展に伴う、貧困、差別、環境、水・エネルギー問題など、国境を超えた地球規模課題が増大

国境を超えて未来の社会像を共有し、課題の深層にある要因を追究し、協働して解決を目指す国際的コミュニティ形成へ

- ①各課題の直接的要因をミクロレベルで科学的に解明する研究者間の協働
- ②各専門分野の科学的知見を学問融合的に検討して深層要因の連関性を捉え解決策を追究するメソレベルでの学際的協働
- ③政治・経済等の社会的文脈を踏まえて学際的かつ国際的な取組みで解決を図るマクロレベルの協働

「地球社会の持続可能な発展」を見据えた「人間と自然の共生」に向け、
教育政策を企画・立案し、各国・地域の文脈で具現化する専門人材を育成する



【交流プログラムの概要】

本プログラムは、大学院の学生を対象に、①各学生が地球規模課題を選定して交流先大学を訪問し、②訪問先の教員の指導のもとで実験・フィールドワーク・インタビュー等の研究方法によって探究して交流し、③その知見を課題解決のための教育政策へつなげるための学際的・国際的協働の研究交流活動を推進する。また、本プログラムは地球規模課題を「人間・社会・国家間で生起する諸課題」、「自然環境変化に起因する諸課題」、「新たな科学技術開発が必要な諸課題」の3つのカテゴリーで把握し、各々に対応して教育学、環境学、国際マテリアルズイノベーションの各学位プログラムを軸とする3つの交流プログラムを設定し、修了者にはCertificateを授与する。

【本事業で養成する人材像】

- (1) アジア各国の歴史・文化・価値観・自然・産業・社会的文脈などの違いを理解したうえで地球規模課題の解決に向けて多様な人々と協働して教育政策を立案することのできる人材(国際機関、各国の政府等)
- (2) 自身が専門とする研究分野の知見と研究方法をもとに、当事国・地域の固有の特徴を踏まえながら地球規模課題の本質と構造を解き明かすことができる、国際的に活躍する人材(大学や公的又は民間の研究機関の研究者)
- (3) 異文化理解の姿勢と広い視野及び深い洞察力をもって地球規模課題の解決に必要な学術的知見を整理し、教育の制度とカリキュラムの改革に結びつく政策を学術的に考察することのできる人材(大学、国際研究機関、各国政府のシンクタンクの教育学研究者)

【本事業の特徴】

本事業では、華東師範大学(中国)、韓国教員大学校(韓国)、コンケン大学(タイ)、マレーシア工科大学(マレーシア)、バンドン工科大学(インドネシア)と本学の6大学間でコンソーシアムを形成し、日中韓とASEANの3大学のうち1大学に学生を派遣するとともにそれらの大学から学生を受け入れて、相互に単位履修を行う。履修プログラムは3段階で構成し、第1ステージは、必修科目2科目(2単位)を参加者全員がオンデマンドで受講する。第2ステージは、交流先大学で各自が設定した課題に基づき「課題解決特別演習」(3単位)および選択科目(3単位)を履修し、学生同士の協働によるフィールドワークや討議を行う。第3ステージでは、「課題解決提案特別演習」(1単位)としてオンラインによる国際学生カンファレンスを開催して、各自が設定した地球規模課題の解決に資する教育政策の提案を行い、参加者同士で討議を行う。このプログラムの実施過程で、パートナー校間の連絡調整と協議を進め、将来的には学位プログラム単位でダブルディグリープログラムの開設をめざす。

【交流予定人数】

		2021	2022	2023	2024	2025
派遣	実際に渡航する学生	0	0	0	0	0
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	20	25	30	30	30
	実渡航とオンライン受講を行う学生	0	20	20	20	20
受入	実際に渡航する学生	0	0	0	0	0
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	20	25	30	30	30
	実渡航とオンライン受講を行う学生	0	20	20	20	20

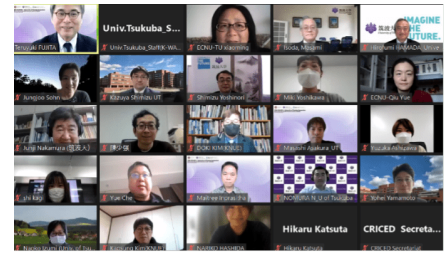
1. 取組内容の進捗状況(令和3年度)

【筑波大学】

【事業の名称】(採択年度 令和3年度)地球規模課題解決に資する教育政策マネジメント専門人材育成プログラム

■ 交流プログラムの実施状況

- 1) 運営事務局立ち上げ、運営委員会設置、学生募集・メンター教員指名等に関わる運営体制の整備
- 2) 日中韓3大学協議に基づき共通科目2科目「社会の課題と教育政策」「地球規模課題の実態」(各1単位)、「課題解決特別演習」(3単位)、「課題解決提案特別演習」(1単位)を筑波大学開設科目と決定
- 3) 共通科目2科目のシラバスを作成
- 4) 第2ステージの3交流プログラムの選択科目群リスト作成と新規科目開設準備
- 5) 「課題解決特別演習」の各学位プログラムで準備
- 6) コンソーシアム覚書の原案作成と日中韓3大学協議の実施
- 7) 広報用HP・ロゴ・リーフレット等を作成し本事業を広く周知
- 8) SEAMEO(東南アジア教育大臣機構)国際カンファレンスの中で6大学の関係者が参加して本事業の内容を広くPR



(SEAMEO 国際カンファレンス)

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

新型コロナウイルスの影響で、令和3年度派遣学生の実績なし

○ 外国人留学生の受入

新型コロナウイルスの影響で、令和3年度受入学生の実績なし

※19,989人が参加したSEAMEO国際カンファレンス“MEXT-Tsukuba Inter-University Exchange Project: for East-Southeast Asia Kickoff Symposium”と題したシンポジウムを開催し、総勢234名が参加。筑波大学学生、海外連携大学学生が参加し、修了書が発行された。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- 1)全学共通の「シラバス作成のためのガイドライン」に基づいて科目の英語シラバスを作成、獲得できるコンピテンスを明示。留学生は特別聴講学生として渡日前に各科目詳細を知ることが可能。
- 2)シラバスに示した評価基準に基づいて成績評価を行い、学生は教育情報システム(TWINS)を通じて成績を確認することが可能。
- 3)「教学マネジメント室」が中心となった学位プログラム等のプログラムレビューの実施及び「シラバスの作成・改善」「成績評価」などの12項目のルーブリックに基づくモニタリングとフォローアップを毎年行う教育改善サイクルの構築。

	R3	
	計画	実績
学生の派遣	20	0
学生の受入	20	0



〈CAMPUS-Asia6 ロゴ〉



(CAMPUS-Asia6 HP)

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

受入学生：

- ①特別聴講学生の受入に関わる諸手続きの準備
- ②生活・学習上の支援に日本人学生がチューターとして対応
- ③学生宿舎は大学が確保し経費を負担の上、居室環境条件等は事前に運営事務局スタッフが確認し整備を実施

派遣学生：

- ①現地滞在費にJASSO奨学金の適用
- ②広報用のHPとリーフレットを配布し、プログラム内容の周知
- ③本プログラムの新規開設科目を学位プログラムの修了要件への組込
- ④派遣先の大学の選択科目リストをオリエンテーション時に周知
- ⑤筑波大学海外渡航システム(TRIP)の入力とOSSMA加入を徹底させ、派遣先大学のメンター教員と連携して学生の状況を把握し対応

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況

情報の公開、成果の普及

学問融合を必須とする地球規模課題の解決という共通目的のもと、参加国の学生が国際協働関係を構築することは、本学が進めるグローバル人材の育成に大きく寄与する。本事業の第3ステージでは国際学生カンファレンスを公開で開催する予定であり、カンファレンス参加者間での討議が可能となる。また、専用サイト(多言語翻訳付)で本事業の内容を学内外へ随時発信することを通じて事業の成果を周知し、他国・他大学へも類似の学際的・国際的協働を普及させる可能性が高まる。

■ グッドプラクティス等

- 1) 日中韓の3大学による共同で共通科目2科目の開設準備
- 2) 異なる3つの学問分野の協働を円滑に行うための学内運営委員会と実行委員会の設置
- 3) SEAMEO国際イベントへの参加および6大学関係者参加の下でPRを実施